

大和ふれあいタクシー新ルートの開設について（お願い）

大和地区まちづくり協議会
大和ふれあいタクシー

1 これまでの経過と課題

大和ふれあいタクシーが地域の要望に応じて運行を開始してから3年が過ぎようとしている。開設当時は、利用把握アンケートに基づき、猪子・横枕集落と江山学園の通学定期便と美穂地区公民館、JAせんだい支店間のオーダーによる運行を目指した。しかし、当初の利用把握アンケートと異なり利用者がほとんどいない状況であった。

その原因として、江山学園への通学を家族が担ったこと、運賃が乗り継ぎにより日ノ丸バス時代より高額になること、乗り継ぎのわずらわしさと将来の利用を見越した回答によるものであった。

通学利用がないことから、定期便から悪天候時に依頼により運行するオーダー制に変更し、すべての運行をオーダー制として経費の負担を減少させた。

運賃については、日ノ丸バス時代の運賃から一律200円（乗り継ぎ時は100円）に変更したことによって、ほぼ解消した。中学生の通学は日ノ丸バス時代より10円高くなっている。通学区間は同じなので小学生と同様、小中の通学利用は100円にしたい。

ルートについては、以前廃止となっていた源太橋経由を復活させ、源太橋・八幡神社前まで運行を延ばすことによって乗り継ぎの便が大幅に増加し利便性は高まった。しかし、乗り継ぎのわずらわしきの解消にはつながっていない。

そのため、利便性からか家族に依存したり、自分で運転する高齢者が目立つ。開設前の説明会では、免許返納後の移動に不安を訴える住民が多かったが、わずらわしさからタクシー利用ではなく、自力運転と家族依存になっているものと思われる。しかし、家族に頼らなくても自力でいたいという思いを持っていることは推測される。家族に依存せず自力で通院や買い物をすることは、フレイル予防にも効果的であり、高齢化の進む大和地区では必要なことと考える。そのためにも、乗り継ぎなしで安価で総合病院や買い物へ行ける移動手段の提供が望まれ、大和地区まちづくり協議会は、自力での移動を地区の課題としており、大和ふれあいタクシーがその担い手としたいと考えている。

2 新ルートについて

(1) 市立病院ルート

市立病院ルートは、市立病院とマルイ、トライアルといったスーパーマーケットでの買い物ができるルートである。「かかりつけ医」制度より、個人医院に通う人が多く、市立病院への通院者は現状では2・3でそのほとんどは家族による送迎であるが、是非確保しておきたい運行ルートである。また、乗車料金を支払ってもトライアル・マルイに買い物に行く人は少ないかもしれないが、高齢化が今後も進ん

でいくことを考えれば、今後利用があるのではと考えている。

(2) 河原ルート

河原ルートは、日ノ丸バスの長谷・河原線の廃線により、鳥取南駐車場以南への移動は少なくなっていたが、昨年のSマートやコンビニの開店により需要が増したルートである。このルートも乗車料金を支払っても買い物する人は少ないと思われるが、市立病院線の買い物コースと合わせて新設を望む。

3 対象地域の拡大

赤子田集落は高齢化率が非常に高い集落である。長谷・河原線の廃線により最寄りのバス停までが500m以上も離れた交通困難地区であった。近い将来、神戸線の廃止が見込まれており、ますます交通困難度が進む。猪子・横枕地区と合わせて、大和地区全体で大和ふれあいタクシーを利用できるような体制にしたいと考える。



<ルート図>



